

センター通信

2015年3月〔第224号〕

Create(創造), Challenge(挑戦), Collaborate(協働)を大切に

発行所 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会

広島市就労支援センター

TEL (082) 537-1331

FAX (082) 537-1332

E-mail: si-jusan@gaea.ocn.ne.jp

http://h-shisyurou.jp/

尾崎基金 販路開拓・技術支援事業報告全体研修会

平成27年2月24日(火)に育成会総合福祉センターにおいて、5年目を迎える広島市心身障害者福祉基金販路開拓・技術支援事業(別称:尾崎基金)の報告会が開催されました。

研修は、年7回、アドバイザーが直接事業所へ出向き、事業所の実情に合わせながら支援していきます。そのまとめの報告会がこの全体研修会です。



1. アドバイザー

販路開拓: 加藤 秀樹 氏 ベクトリード代表 (セールスレップ)

技術支援: 新居 敏春 氏 広島市中小企業支援センター 新商品開発コンサルタント

2. 内容

- ① ふなき福祉園 鴻上 昭 氏 「新商品開発」
- ② Cross Road 齋藤圭子 氏 「デコパージュ製品の開発」
- ③ トムハウス 上岡由美子 氏 「『地域の人に知ってもらおう』をめざして」
- ④ 光清学園 山下秀美 氏、岡崎恵 氏 「意識改革」

各事業所の発表を簡単にお伝えします。まず、ふなき福祉園では、無農薬のフルーツを作っており、主製品のジャムに加えてそれをつけるパン、そして葉を採取・乾燥させて独自のブレンドでハーブ茶を製造しました。クッキーはハワイアンクッキーに特化しました。「プロに徹する」ために原価計算も明確にしました。Cross Roadの課題はデコパージュ製品でした。新しい技法で様々なものが石鹸などに描けるようになり、オーダーメイドにも対応できます。動物は動物園へのように、デザインに合わせて販路開拓が可能になりました。雑貨店と契約でき、「made in japan」を入れて中国の方にも売ろうと考えておられます。原価計算と営業のための提案書の書き方も学び、オリジナル製品は価格を上げました。トムハウスでは、利用者と一緒に時間をかけてテーマと目的について話し合いました。カフェの売上を上げるために売れないものは止める、自分達でできないなら外から入手、そこで、つくし工房とコラボしてコーヒーにそのクッキーを添えました。値段も上げましたが、美味しいものは受けるのでしょ、クッキーもよく売れ、お客様も増えました。コーヒー豆とクッキーのセット商品も考えました。店の前に駐車していた車を営業時間は他に移したので、外からカフェがよく見えるようになりました。これで地域に知ってもらうオープンカフェの実現も可能になります。また、服をリフォームしてバッグにする新製品も検討中です。光清学園では、商品のディスプレイの方法を検討しました。遠くからでも見やすいPOP、ひな壇にして展示、テーマごとにまとめる等々。新製品も作りしました。製造・販売には、ただ作るだけでなく、ストーリー性が不可欠です。常時商品を置いて頂ける所を自分達で探すことも必要です。この研修で、職員の意識改革が確実に進んでいますとのこと。



アドバイザーお二人のご講評では、時間をかけて方向性を話し合う、オープンカフェの使い方はいろいろある、オーダーメイドは強み、ここしかないものを作る、ブランド化も必要、見せるだけでなくコトバで伝えるキャッチコピーは欠かせない、良いものを作ってもソフト面での工夫がなければ意味がない、作品展とかの仕掛けも考える必要がある等々 たくさんのご助言を頂きました。参加者には役に立った1日になったことでしょう。

わたしたちの看板商品

イベントなどに出店している事業所のブースには、たくさんの商品が並べられています。それにもかかわらず、どういうわけか、今日も出ているかなと探して、あればついつい手に取ってしまう商品があります。それをここではあえて看板商品と呼びましょう。例えば、「共同作業所オレンジハウス」（安佐北区）の「布ぞうり」は看板商品といえるでしょう。



理事長の飯田勉氏が作り始めました。オレンジハウスは、もともと利用者が多かった「夢ハウス」から分離独立した事業所です。開所は平成13年2月でした。その当時は、精神障害者が通う施設を作るには地域からの反発が強かった時代でした。それにもかかわらず、民生委員・児童委員とかの地域の役職にたくさん就いておられたこともあってか、乞われて理事長になられました。とはいうものの、何をすればよいのかわからないままのスタート。あれこれ考えているうちに何か目玉商品になるものを作って売ることができればと思い、子どもの頃作っていたぞうりを布で作りはじめられたそうです。最初の数年間は苦勞の連続とか…、今ではこのカラフルな「布ぞうり」が1足1時間くらいで仕上がるそうです。頂いた布や買った布で編みますが、価格は布の値段によって決められます。履いていると足の形にフィットして動きやすく、特に夏は涼しく履き心地抜群です。最近では、室内のフローリングが増えて冬でも売れるようになってきています。専用の棚に並べられているカラフルな「布ぞうり」、左の写真の展示イ



イベントでは、別に小さい棚が二つ並べてありました。今ではファンも増え、遠方から特別注文があるそうです。子ども用のぞうり（右）もあります。静かに売れる看板商品といって良いでしょう。今の課題は後継者を育てることだそうです。編む技術だけでなく、カラーセンスも必要そうです。



広島市役所・安佐北区役所出店販売（1階ロビー）

今年度最後の販売月になりました。1年間どうもありがとうございます。
販売時間は12:00~13:00です。皆様のお越しをお待ちしております。
次年度もよろしくお願ひします。

広島市役所販売

3月 3日	未来館	おりづる作業所	アイラブ作業所
3月10日	みのり作業所	広島どんぐり作業所	元気工房やる気まんまん
3月17日	つくしんぼ作業所	ワークハウススマイル	きつつき共同作業所
3月24日	なないろ作業所	アイサンサン作業所	安芸の郷

安佐北区役所販売

3月 3日	可部つちくれの家	NPO 法人 憩
3月10日	つくし工房可部	木の花作業所
3月17日	お菓子工房エール	よもぎのアトリエ 夢ひろば

記事にする話題、情報がありましたらお知らせください。